

【共通の設問】次の傍線部「しか」を識別せよ。(答え・解説は解答編)

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1.

ありしかば、出でぬ。

Q2.

人々、しか言ひて笑ふ。

Q3.

見しかば、あやし。

Q4.

言ひしかど、聞かず。

Q5.

めづらしき花を見てしか。

Q6.

聞きしかば、驚きぬ。

Q7.

思ひしかども、かなはず。

Q8.

しか思ふ人も多し。

Q9.

来(き) しかば、待ちけり。

Q10.

せしかば、悔ゆ。

Q11.

ふるさとにとく帰りにしか。

Q12.

ありがたくこそ侍りしか。

Q13.

まづ、しか心得よ。

Q14.

受けしかば、喜びぬ。

Q15.

名をこそ聞きしか。

Q16.

心ゆくまで月を眺めてしかな。

Q17.

立ちしかば、見送りぬ。

Q18.

あはれにこそ覚えしか。

Q19.

翁もまた、しか答ふ。

Q20.

月日経しかば、忘れぬ。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21.

雨降りしかば、道あしし。

Q22.

仰せられしかば、かしこまりぬ。

Q23.

いと興ありとこそ思ひしか。

Q24.

約せしかど、来ず。

Q25.

暮れしかば、宿借りぬ。

Q26.

いみじくこそ悲しかりしか。

Q27.

風吹きしかば、波荒し。

Q28.

花のみこそ咲きしか。

Q29.

別れしかど、忘れず。

Q30.

人の言ふこと、げにしかあらむ。

Q31.

訪ね来しかば、留守なりき。

Q32.

心細くこそ覚えしか。

Q33.

いと寒かりしかば、火を焚く。

Q34.

いかで都へ上（のぼ）りにしか。

Q35.

月見しかば、故郷を思ふ。

Q36.

たびたびこそ申ししか。

Q37.

雪積もりしかば、道閉ぢぬ。

Q38.

世の人みな、しか言ふ。

Q39.

あやしと見しかど、過ぎぬ。

Q40.

いとうれしくこそ侍りしか。

Q41.

言伝（ことづ）てしかば、安し。

Q42.

この物語、果てまで読みてしか。

Q43.

帰りしかば、人もなし。

Q44.

げにとこそ思ひしか。

Q45.

召ししかば、参りぬ。

Q46.

母も、しか教へき。

Q47.

旅寝（たびね）せしかば、夢も見ず。

Q48.

心にしみてこそ聞きしか。

Q49.

待ちしかど、来ずなりぬ。

Q50.

世を捨てて、深き山に入りしか。

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

Q51.

めでたくこそ侍りしか。

Q52.

昔は、しかありき。

Q53.

あさましくこそ覚えしか。

Q54.

老いしかば、力なし。

Q55.

山ほととぎすの初音をだに聞きてしか。

Q56.

いかにとこそ問ひしか。

Q57.

恋ひしかば、文書く。

Q58.

をかしくこそ見えしか。

Q59.

しか聞きて、急ぎまかでぬ。

Q60.

あまた集まりしかど、定まらず。

Q61.

戦（たたか）ひしかば、勝ちぬ。

Q62.

かばかりとこそ見えしか。

Q63.

歌の道を究（きは）めてしか。

Q64.

出で立ちしかば、見送りき。

Q65.

いみじとこそ聞きしか。

Q66.

しかのみならず、雨さへ降りぬ。

Q67.

別れ告げしかば、涙落つ。

Q68.

ありがたくこそ承（うけたまは）りしか。

Q69.

契りし人に、今ひとたび逢ひてしか。

Q70.

思ひ初（そ）めしかば、忘れず。

Q71.

暮らししかど、心慰まず。

Q72.

このことのみこそ案じしか。

Q73.

しかせよと、仰せらる。

Q74.

申し受けしかば、いそぎ参る。

Q75.

寝（い）ねしかど、寝（ね）られず。

Q76.

憂きことの多かる世を、逃（のが）れにしか。

Q77.

よろこびてこそ受けしか。

Q78.

旅立ちしかば、便りもなし。

Q79.

月のみこそ照らししか。

Q80.

げに、しかあるべきことなり。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81.

都にてこそ聞きしか、かかる山里にも住む人ありけり。

Q82.

しか言ひしかど、人々用ゐず。

Q83.

心のうちにこそ思ひしか、え言はざりき。

Q84.

ありしかばこそ、今も恋しけれ。

Q85.

いかでこの姫君を得（え）てしかな、見てしかな。

Q86.

いみじう労（ら）たくこそ覚えしか。

Q87.

しか定めしかば、今さら違ふべからず。

Q88.

げにと聞こえしかば、うなづきぬ。

Q89.

月をのみこそ眺めしか。

Q90.

我ばかりかく思ふらむと思ひしかど、さもあらざりけり。

Q91.

我も山人（やまびと）となりにしかな。

Q92.

御消息（せうそこ）ありしかばこそ、まゐりしか。

Q93.

鐘の音をこそ聞きしか、姿は見ず。

Q94.

いにしへの人も、しか言へり。

Q95.

あはれと見しかば、忘れがたし。

Q96.

申ししかど、許されず。

Q97.

人の心は、昔もしかありけむ。

Q98.

いと心苦しくこそ覚えしか。

Q99.

しか思はば、とくこそ帰るべけれ。

Q100.

生きてあらば、かくは嘆かざらまし、とこそ思ひしか。